

女子栄養大学データサイエンス・AI教育プログラム
令和6年度 自己点検・評価結果

○令和6年度に実施した標題プログラムについて、女子栄養大学データサイエンス教育運営委員会において次の通り自己点検・評価を実施しました。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度よりプログラムを開始し、履修者数は339人であり、令和6年度入学者数の83.9%が履修した。プログラムの修了者数については、2年時の開講科目の成績と合わせて修了判定を行う学科もあることから、全体の結果は出ていないが、令和6年度終了時点で72人（プログラム履修者の21.2%）が修了している。 令和7年度以降は、学部共通の必修科目を含める等の工夫を行い、履修者数及び修了者数の向上を図る。
学修成果	すべての科目において実施している授業評価や、定期試験、提出課題、または発表等を通じて、学生の理解度を把握している。 全てのプログラム履修者が修了時期を迎えていないことから、全体的な評価はできないが、進級後の授業科目に、プログラムを通して得た知識・技術の活用を織り込むことで、プログラムの満足度の向上に繋がるものと見込まれる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和6年度は学科によってプログラム対象科目が異なっていることや、令和7年度にプログラム対象科目として開講される科目もあることから、全体的な理解度の評価はまだ行えていないが、実習科目においてAIの体験教材の開発を担っている教員が実施した学生アンケートでは、「この授業科目全体を通しての到達目標を、どの程度達成できたと感じていますか？」の項目に対して75%の学生（n=148）が「ほぼ100%」「80%程度」と回答した。また「この授業科目を通して得た学修成果（知識や技能など）に、どの程度満足していますか？」の項目に対しては85%の学生（n=148）が「非常に満足している」「かなり満足している」と回答した。自由記述にも「チャットAIが言っていることは必ずしも正解であるとは限らないのでAIに頼りすぎないようにすることが大事で何事も調べることが大事だとわかった。」「AIのプログラミングを通して、コンピュータの学習の仕方、させ方も学んだ。完璧にみえてもやはりそんなことはないのだなと思った。」などのコメントを得た。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	全てのプログラム履修者が修了時期を迎えていないため、プログラム全体へのアンケート評価は実施できていない。令和7年度入学生からは学部共通の必修科目をプログラムに取り込むとともに、新入生ガイダンスにおいて、対象科目の履修を促している今後の社会に求められる資質・能力を身に付ける機会であること、また、令和6年度の開講科目における授業評価から履修者の感想等を伝え、履修を促している。 学生アンケートには「後輩等他の学生への推奨度」を問う項目がないが、チャットの仕組みやAIの学習の原理、プログラミング等の授業を行った後「この授業を後輩にも薦めたいと思いますか」という独自のアンケートを実施したところ、93%の学生（n=144）が「思う」と回答した。また「この授業を受けて、AIに対する理解は深まりましたか」の項目には97%の学生が「深まった」と回答した。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和7年度入学生からは学部共通の必修科目をプログラムに取り込んでおり、履修者数及び履修率の向上を見込んでいる。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		プログラム修了者の卒業までに間があり、修了者に対する学外の評価を得るのは、先のこととなる。 一方、学生の就職先を対象にしたアンケートを毎年実施するほか、適宜、教育への意見を伺っている。その際、採用する学生に求める能力として、ITスキルやプログラミングスキルを挙げる企業も確認しており、今後、プログラムの改善においても参照・反映していく予定である。また、就職の際に求められる能力を反映していることを学生に伝え、履修あるいは学習意欲の向上に繋げたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		内部質保証の一環として、学外からの意見を聞く機会はあるが、令和6年度はプログラム開始初年度であるため、学外者の意見に基づく点検・評価には至っていない。今後は、本学卒業生が多く就職する業界・分野を中心に、本プログラムへの意見を求めるとともに、教育内容への反映を検討する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		AI技術を使ったサービスやデータサイエンスによる問題解決の事例を、動画や演習等で視覚的かつ体験的に学ぶ機会が多くなるように工夫している。具体的には、言葉を知らないチャットボットと会話を繰り返していくうちに次第に会話が成立していく様子や、プログラミングによって複雑なデータ処理や解析が行えることの体験を通じて、AIやデータサイエンスを学ぶ楽しさを感じながら理解するための独自の教材を使っている。また本学には栄養や食生活に関するデータの蓄積があり、それらのデータから得られた結果を栄養学の知識に基づいて解釈し、栄養指導や健康管理のために活用するという明確な目的があるため、本学での学修が数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義の理解に直結している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		社会の変化や生成AI等の技術の発展に応じながら学生の興味関心に沿ったテーマや話題を選択して教材を常に更新するよう努めている。また授業では毎回学生のリアクションペーパーから疑問や質問を吸い上げてフィードバックを行ったり、学期終了時の授業アンケートから教材や授業方法等の改善点を洗い出すなどして分かりやすい授業の構築に反映させる。